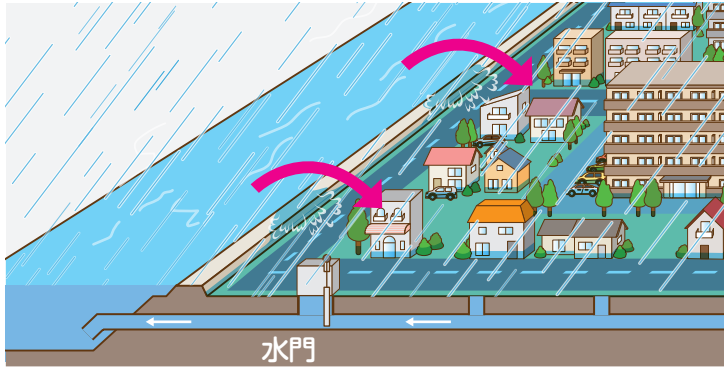




風水害対策

▶ 洪水災害と浸水害（内水氾濫）

洪水とは

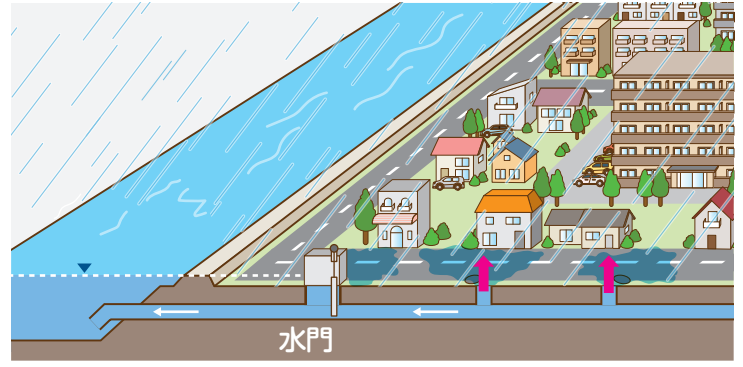


川の水が増水すると堤防が壊れたり、水があふれる河川氾濫が発生します。一気に水が流れ込むため、川の近くの家が壊されるなど、人命を奪うことがあります。

【洪水警報】

洪水の危険が高まると「洪水警報」が気象庁から発表されます。綾瀬市内の洪水による浸水想定区域はP15～P30のマップで確認してください。

内水氾濫とは

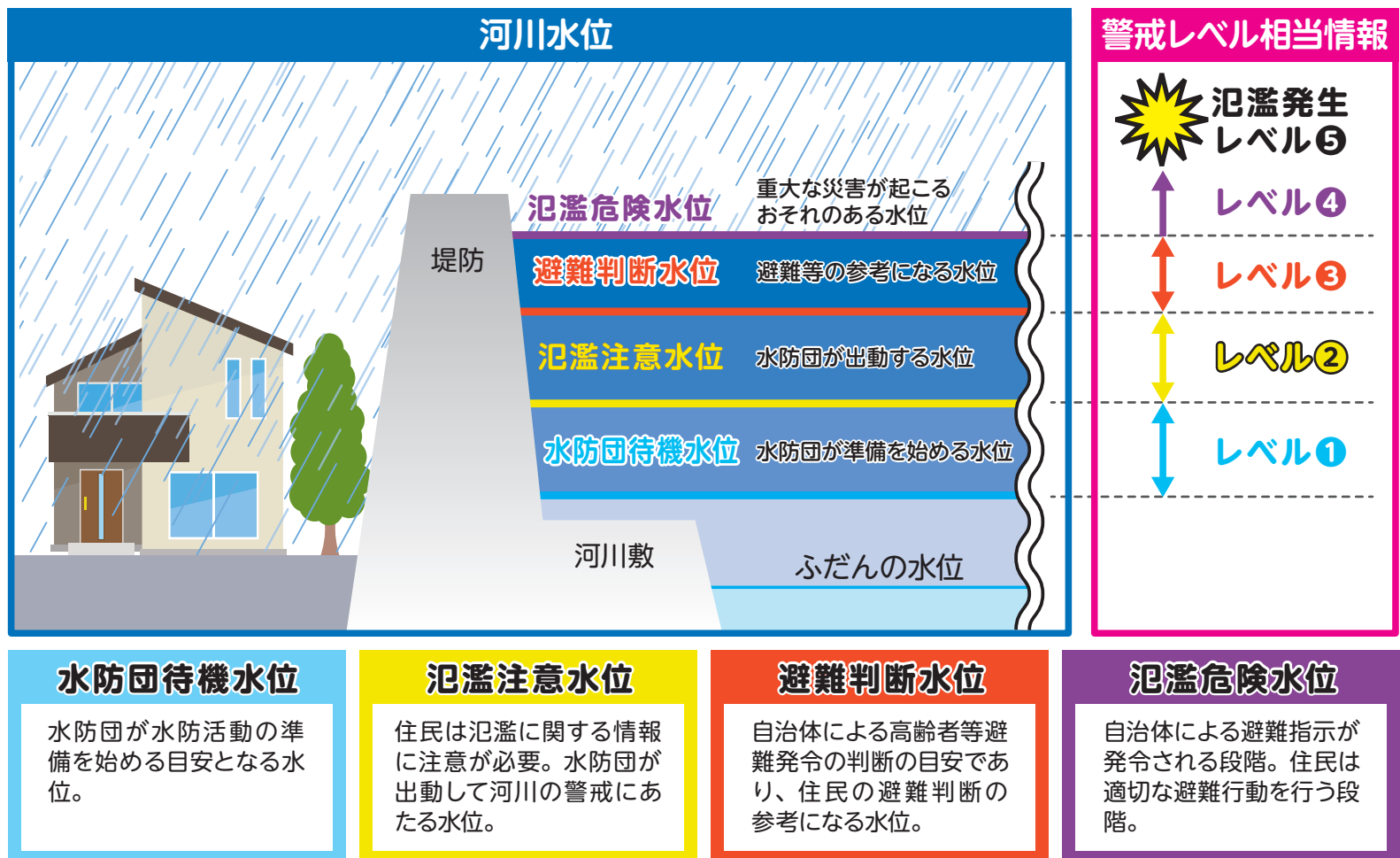


大雨で排水が追いつかない時や、川が増水で雨水が排水しきれない時に内水氾濫が発生します。流れは速くありませんが、低い市街地に水が集まり、道路冠水、床上・床下浸水が発生します。

【大雨警報（浸水害）】

内水氾濫の危険が高まると「大雨警報（浸水害）」が気象庁から発表されます。綾瀬市内の内水浸水想定区域はP15～P30のマップで確認してください。

▶ 河川水位（目久尻川と蓼川）と警戒レベル相当情報



● 目久尻川（吉野橋）、蓼川（上土棚新橋）の水位が確認できます。



県雨量水位情報

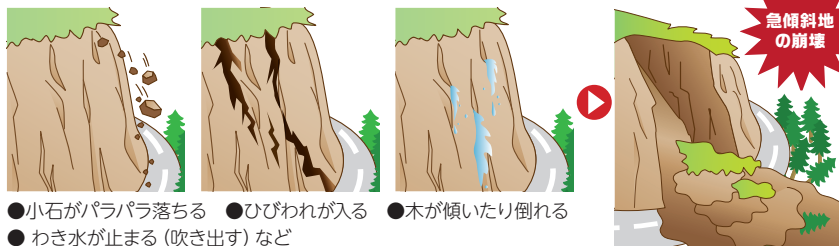
▶ 土砂災害（土砂災害警戒区域等と土砂災害警戒情報）

土砂災害の種類

土砂災害は、台風や集中豪雨又は地震を原因として発生することが多いため、予想が非常に難しく、発生した場合は被害が大きいことがあげられます。土砂災害には、急傾斜地の崩壊、土石流、地すべりの3種類があり、綾瀬市内では急傾斜地の崩壊のみ神奈川県より土砂災害防止法の指定を受けています。

急傾斜地の崩壊について

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。急傾斜地の崩壊は突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。普段と違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

避難行動のポイント

- ① 土砂災害の前兆現象に注意し、早めに避難しましょう。
- ② 土石流やがけ崩れの起こる場所から遠くに避難（水平避難）しましょう。
- ③ 夜中や大雨の中など外へ避難を行うのが危険と感じる時は、自宅2階以上の山の反対側の部屋など堅固な建物の上階へ避難（垂直避難）することも考慮しましょう。
- ④ 記録的短時間大雨情報が発表された場合は、早めに避難しましょう。

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

急傾斜地の崩壊等が発生した場合には住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域。

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

警戒区域のうち、急傾斜地の崩壊等が発生した場合には建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域。

土砂災害警戒情報

● 神奈川県土砂災害情報

<https://dosyasaigai.pref.kanagawa.jp/website/kanagawa/mobile/index.html>



大雨により土砂災害の恐れがある時は、「大雨警報（土砂災害）」が気象庁から発表されます。その後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときには、「土砂災害警戒情報」が発表されます。

▶ キキクル（危険度分布）について

「キキクル（危険度分布）」は、大雨や洪水による災害の危険が、どこで、どのレベルで迫っているかを、地図上で視覚的に知ることができる情報で、気象庁のホームページで公開されています。

テレビなどの気象情報で注意報や警報が発表されるなど、大雨による災害が発生するおそれのあるときや、急に激しい雨が降ったときは、このページにアクセスし、最新の情報を入手しましょう。大雨による土砂災害の危険度は「土砂キキクル」、短時間の強雨による浸水害の危険度は「浸水キキクル」、河川の洪水災害の危険度は「洪水キキクル」で、確認することができます。

● 気象庁 キキクル （危険度分布）



▶ 警報等の防災気象情報の入手について

特別警報・警報などの防災気象情報が発表された場合、綾瀬市では、「安全・安心メール」、「綾瀬市公式LINE」、「綾瀬市防災X（旧ツイッター）」により、自動で配信されます。

● 安全・安心 メール



● 綾瀬市公式 LINE



● 綾瀬市 防災X



● 綾瀬市防災 気象情報





風水害対策

警戒レベルと防災行動

市や気象庁等から発表される防災情報を用いて、住民がとるべき防災行動を直感的に理解しやすくなるよう、「5段階の警戒レベル」を明記して防災情報が提供されることとなっています。

レベル4で
全員避難

危険度	警戒レベル	住民がとるべき行動	市町村が発令	気象庁等の情報	キキクル	
↑ 高 ↓ 低	5	命を守る 最善の行動	緊急安全確保 ※必ず発令されるものではありません	大雨 特別警報	土砂災害警戒情報 記録的短時間大雨情報	災害切迫
	~~~~警戒レベル4までに必ず避難！~~~~					
	4	全員避難	避難指示	大雨警報 洪水警報		危険
	3	高齢者等は避難 他の住民は準備	高齢者等避難			警戒 (警報級)
	2	避難行動の確認		警報の可能性 (高) 注意報 大雨注意報 洪水注意報		注意 (注意報級)
1	心の備えを高める			早期注意情報		

※警報級の現象が5日先までに予想されているときには、その可能性を「早期注意情報（警報級の可能性）」として[高]、[中]の2段階で発表しています。

風水害対策

## 水害発生時における避難の心得

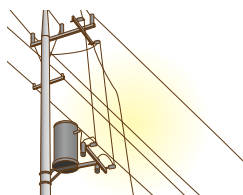
### 被害の軽減

扉の下の隙間から水が入ってくるので、「土のう」や板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。



### 危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、はん濫水には汚水が混ざっているので、子供などがさわらないように気をつけましょう。



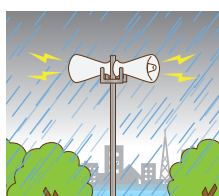
### 避難は徒歩で

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げになります。また、浸水すると動かなくなるので使わないようにしましょう。



### 避難の呼びかけに注意を

危険が迫った時には、防災行政用無線や広報車などから避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には速やかに避難しましょう。



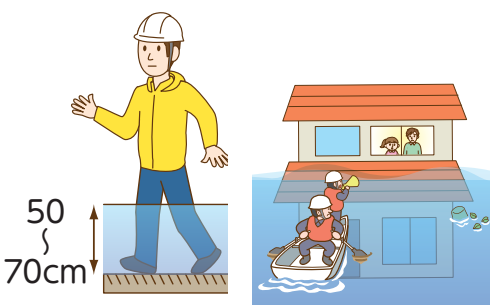
### 動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットをかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプがよいでしょう。



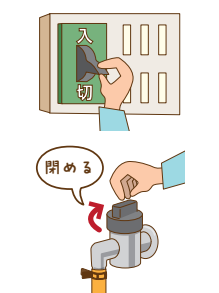
### 歩ける深さ 男性約70cm、女性約50cm

洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまで。それ以上になったら高い場所で救助を待ちましょう。



### 避難の前に確認を

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



### 水面下は危険です。二人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。



## ▶ 避難の考え方と避難のタイミング (マイタイムライン)

マイタイムラインとは、防災情報をもとに、住民一人ひとりがとるべき防災行動を時系列的に整理し、命を守るための一助とするものです。普段から家族がよく目にするところに置いておきましょう。(裏表紙に記入用の「マイタイムライン」があります。)

### ● 〈記入例〉 あやせマイタイムライン【避難行動計画】

避難行動の考え方

浸水の危険があっても、最大浸水深よりも高いところにいる場合は自宅に留まること(垂直避難)も可能ですが、想定される浸水深を上回ることもあり得ます。

例外 ↑

ハザードマップで家がある場所 → 災害の危険があるので、原則避難行動を要する(ハザードマップ参照)

避難行動を考える際にもっとも大切な情報になります。確認したことがない方は、ハザードマップで今すぐ確認しましょう。

※1: 土砂災害警戒区域、浸水(内水) 想定区域はそれぞれ色付けされています。 ※2: 高齢者、障がい者、妊産婦等

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

はい → 警戒レベル3高齢者等避難が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。

いいえ → 警戒レベル3高齢者等避難が出たら、市が開示した避難所に避難しましょう。

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

はい → 警戒レベル4避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。

いいえ → 警戒レベル4避難指示が出たら、市が開示した避難所に避難しましょう。

**自宅の危険度**     土砂災害警戒区域     浸水(内水) 想定区域 (目久尻) 川 3.0~5.0 m / (内水) 1.0~2.0 m

警戒レベル	警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4	警戒レベル5
行政からの情報等	・防災行政無線などによる事前の注意喚起	・風水害時避難所の開設(自主避難の呼びかけ)	・高齢者等避難	・避難指示	・緊急安全確保
警戒レベル相当情報	・大雨になりそう	・大雨注意報、洪水注意報、氾濫注意水位	・大雨警報、洪水警報、避難判断水位	・土砂警報情報、氾濫危険水位	・大雨特別警報等
基本的事項 (全ての避難行動に共通する事項)	<input checked="" type="checkbox"/> 天気予報を確認 <input checked="" type="checkbox"/> 家の点検・補強 <input checked="" type="checkbox"/> 非常持出品や備蓄品※の確認 (※停電用懐中電灯や水など)	<input checked="" type="checkbox"/> 備蓄品等が水浸ししないよう安全な場所に置く <input checked="" type="checkbox"/> 車が浸水する恐れがある場合は、車両置場へ※ (※ハザードマップ参照)	<input checked="" type="checkbox"/> 避難場所・開設状況の確認(市HP、安全安心メール)	<input checked="" type="checkbox"/> 避難開始 避難指示が出たら、危険な場所から全員避難	<input checked="" type="checkbox"/> 命の危険直ちに安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 命を守る最善の行動をとる <input checked="" type="checkbox"/> 屋内の安全な場所への避難
行政からの情報・気象情報に応じた「警戒レベル欄」を見て、やることをチェックしていきましょう。 例: テレビで「大雨」の予報 ⇒警戒レベル1の欄をチェック 「大雨警報」が発表された。 ⇒警戒レベル3の欄をチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 避難場所を事前に確認 第1候補(小園自治会館 歩いて20分) 第2候補(城山中学校武道場 歩いて30分)	雨風が強くなってきてから、避難場所を探すのは危険です。ハザードマップを確認し、あらかじめ避難先の候補を決めておきましょう。	<input type="checkbox"/> 避難開始 避難に時間を要する方は、危険な場所から避難	雨が強くなってきたら、目久尻川や蓼川の水位を確認しましょう。	目久尻川(吉野橋) 蓼川(上土榎新橋)の水位が確認できます。
私のメモ (避難場所や追加に必要なこと)	綾瀬市 気象情報    綾瀬市 気象HP    目久尻川(吉野橋) 蓼川(上土榎新橋)の水位が確認できます。				

風水害対策

## ▶ 風水害への対応 (事前対策)

風水害への対応

- 屋根やアンテナが強風で飛ばされないよう、補強する。
- 排水溝が落ち葉やごみで詰まらないよう、側溝や雨水ますなどをこまめに掃除する。
- 排水溝の上には、車乗り入れブロックなどを置かないようにする。
- 樹木は日ごろから適正に管理し、倒木などが発生しないようにする。
- 鉢植えなど飛びやすいものは、固定するか室内へ移動する。
- 雨戸を閉め、雨戸がない場合は板やガムテープで窓ガラスを補強し、カーテンを閉める。
- 土のうや水のう、プランターを利用して、浸水を防ぐ。
- トイレや風呂場の排水口は、水のうなどでふさぐ。
- 台風や積雪など荒天の際は、ゴミの収集(変更・中止)を確認する。

- 1 大きめの袋を二重にして水を入れる
- 2 袋の口を閉める。 ※空気を抜く
- 3 ブルーシート上の段ボールに入れる
- 4 ブルーシートで段ボールを包む

浸水対策

水深が浅い場合は、土のう(無い場合は水のう)を設置することで、建物への浸水を防ぐことができます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用のポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでも)等を、ビニールシートで包んで設置しても良いでしょう。道路よりも建物が低い土地や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておくことより効果的です。

逆流対策

豪雨のときなど、急激な水位の上昇によって、下水管が満水となり、下水が逆流(内水氾濫)し、トイレや風呂、洗濯機の排水口などから、水が噴き出ることがあります。そのようなときは、ビニール袋に水を入れた「水のう」を置くと、逆流を抑える効果があります。